

文化協会報



# せせらぎ

第16号

発行 平成9年12月25日  
東部町文化協会  
印刷 東部プリント



「二つの風景(花)1985」 荒井 茂雄

# 東部町の文化を考える

## 〈町長さんの生涯学習〉

せっかくオリンピックが来るんだから、英語で話してみたいなア、そんな動機で英会話をグループで始めました。

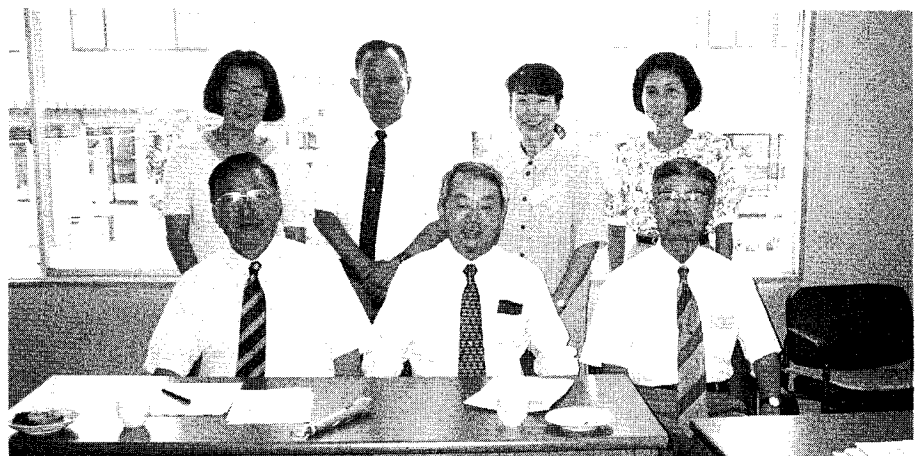


英会話レッスン風景  
(キャラ先生を囲んで)

個人的にもNHK英会話講座で勉強しています。なかなか上達はしないが、でも確実に進歩していると思います。日本人が苦手なヒヤリングも含めて、一生取り組むことが大事なアと思います。なかなか時間は取りづらいんですが、結構私は本を読んでおります。これらの書物を通して自分を啓発して、将来のあり方とか、自分自身の生き方などを学び取っています。

## 〈文化についてのビジョンは〉

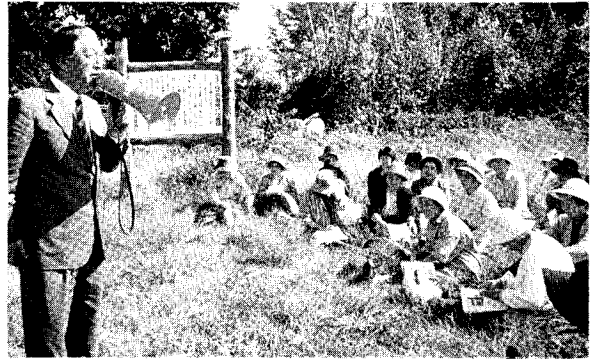
産業・文化・福祉、これからの政治と言うか行政を考えていく上で大切な三点だと思っておりますよネ。  
一、まずは経済で地域産業の振興を図ること。  
二、次は文化ですよネ。生活文化、食文化を含めて、その地域に高度に根ざしているから、その地域が良いか悪いかの評価につながって来るんじゃないかなアと思っています。だから文化活動と言うものに力を入れていく必要があると思います。  
三、福祉。これからは高齢者社会を迎えるので、やっぱり福祉ですよネ。規制緩和で社会的弱者がどうしても生まれて来るのでそれを救うのは福祉なんですすよネ。



8月29日 座談会風景  
(文化についてのビジョンを熱心に語る)

## 〈文化協会に期待するポイント〉

町民の皆さん一人一人が意識を持って頂く事が、文化の振興につながると 생각합니다。その意味で文化協会の皆さんが活動していただく、それが大変重要ではないかなアと思います。



成立石器時代住居跡・史跡めぐり

### 〈教育長さんの文化ビジョン〉

学校解放、生涯学習などをやったりしているのは、より大きく学校教育が進展するために大変役にたっていると思います。

私はリードリー市で一番学びとつてこなければいけないと感じたことは、心は非常に文化的に高く、体はあくまで粗野でいいと言う、あの西部の開拓魂です。これを今の子供に補っていかなければならぬと思います。

### 〈文化協会に期待するもの〉

文化協会はこの地域のある意味での大学であるので、会員の皆さん一人一人が社会大学を背負って戴いているので、会員のこれからの活動を更に期待

しています。(長岡克衛前教育長は10月24日(金)をもって退任されました。7年間にわたり東部町の教育行政に尽力されました。ご苦労様でした。)

### 〈星合新教育長が就任〉



星合孝史新教育長

10月28日より、新教育長に星合孝史さんが就任されました。ごあいさつと、文化協会への期待をよせていただきました。

### 〈文化協会に寄せて〉

教育長 星合 孝史

十月二十八日付で教育長に任命された星合孝史ですがよろしく願います。町民憲章にある「教養を高め、豊かな文化の町」を目指しての日々の活動に心から敬意を表します。

最近特に、物の豊かさから心の豊かさへの重要性がよく話題になります。私たちの東部町がこの視点から、生涯学習に力を入れ、その実践が広く各地から評価されている姿を大変心強く思っています。

私は、十一月一日、中央公民館で東部町総合文化フェスティバルを鑑賞させていただきました。近所の方の作品に身近かな親しみを感じたり、知人のみことな作品に感動したりしながら、心豊かな生き方の一こま一こまに接する思いでした。

文化協会長 関 義豊



本年度は文化協会発足二十五周年を迎え、皆様方よりお祝いのお言葉を戴きましたことに心より御礼申し上げます。

本年も東部町の文化の流れの中の一つとして、私達文化協会では各会員の音楽芸能関係部会を始め各部会の発表会展示会等、または総合文化フェスティバルへの参加等が目白押しに開催され、計画をされて活動しております。これは会員の皆さんの生活の中より生れた、生活の文化であると思います。私達は先ず小さな目標を定め、これを核反応の如く広げ、お互いに助け合っ

てゆくことが、生涯学習まちづくりのもとになると思います。町の文化はみんなで造りましょう。町のモットーである、町づくりは人づ

くりの気持を大切にして、皆さんと一緒にこれからも文化活動を続けて、それぞれの明るい家庭と、住みよい町にしたいと思っております。

### 平成九年度役員紹介

- 文化協会会長 関 義豊
- 副会長 佐藤 利秋
- 副会長 小林 俊子
- 監事 柳 沢 芳夫
- // 佐藤 充子

### 編集委員のコメント

協会創立二十五周年にあたり町長、教育長に突撃インタビューを編集部一回で行いました。

お二人にはご多忙のなか遠慮を返り見ない質問にも具体的に答えて頂き、本紙を飾ることができました。

保科町長の難しいお顔しか存知ませんでした。取材で和やかに英会話を学ぶ一面を拝見しました。

長岡先生の史跡めぐりを同行して、先生の興味深いお話から東部町の歴史と文化を見直しました。

と同時に今後は私達がどんな歴史と文化を築けるのか改めて考えました。文化協会員の責任も重大ではないでしょうか。

未来に素敵な文化をたくさん残せるように皆さん頑張りましょう。

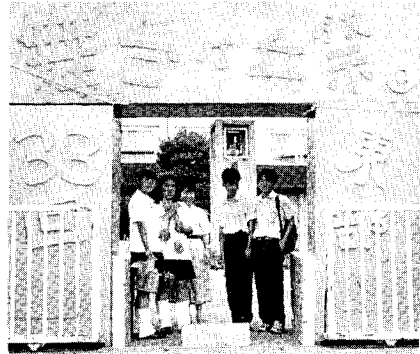
# 東部高校舞台ヶ丘祭

## the Trail ～君とともに～

### 心を一つに「ぶちあわせ太鼓」 舞台ヶ丘に響く!!



青空の下、ぶちあわせ太鼓の勇壮な音が響く



好天に恵まれた九月六日・七日、第三十三回舞台ヶ丘祭が公開された。今年のテーマは「君とともに」。全生徒皆が成就する喜びを味わい、少しでも地域の人に東部高校の良さを知ってもらおうというものの。各クラスごとや委員会、クラブなどで工夫に富んだ盛りだくさんの発表展示があった。

「ぶちあわせ太鼓」は、一個の太鼓を三人一組でとぎれなく交代にたたき続ける勇壮なもの。パチさばきも鮮やかにサツと交代するタイミングが見事だ。

夏休みには伊那市へ研修に行き、たたき方を習ってきたり、ビデオを見て動きを研究するなど意欲的に練習した。

何度も練習を重ねるうちに皆の息が合い、クラスが段々まとまっていたという。

五個の太鼓を十五人がかけ声をかけながらたたく舞台は迫力満点。大きな拍手が湧いた。



順番に交代するパチさばきも見事  
一糸乱れぬ動きは若さいっぱい

### 修学旅行は あこがれの沖縄へ!!

舞台ヶ丘祭のアーチをくぐるとアーチの裏は朱礼の門。玄関の横には沖縄の海や「首里城」の色鮮やかなデジタル壁画が一目を引いた。これらは、二年生がクラスごとに取り組んだ沖縄を象徴するモニュメントや展示物の一部である。飛行機利用が可能になり、今年から沖縄が修学旅行地になった。有意義な旅行にするため一学期から沖縄の自然や歴史文化、平和学習などの事前学習を重ね、その成果を文化祭で発表。

沖縄戦や基地の写真展など見たえのある展示も多かった。

学習を通し沖縄の見方が、自然の美しさだけから歴史的なことや現状を踏まえたものになり、本上との違いをよく見てこようという意識が芽ばえた。

期待に満ちた沖縄への旅は十月二十六日～二十九日まで。

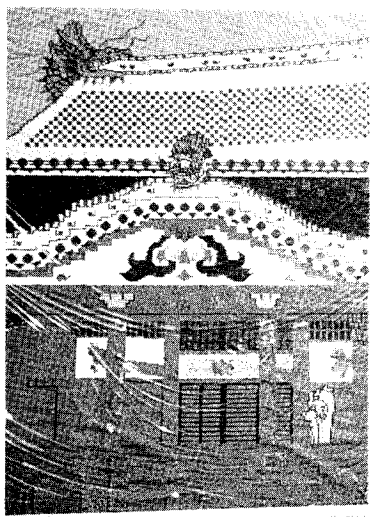
サンゴ礁とエメラルドの美しい海に歓声をあげながら、沖縄について感じたことは……

「平和な世の中に生まれきた幸せを確認した」「今後の歴史に「戦争」という二文字は絶対入れさせない」「四人に一人が亡くなったことに怒りを感じる」等々。

沖縄は若い感性に大きなインパクトを与えたようだ。

# 21世紀へのステップ

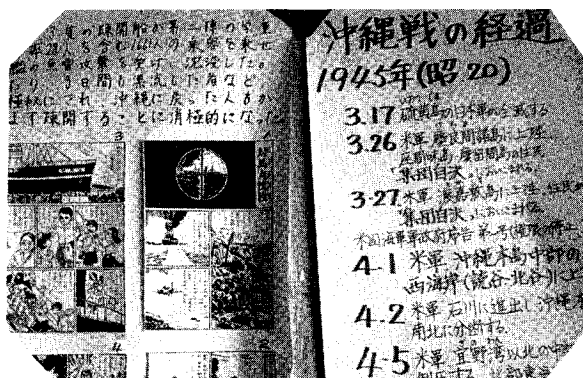
## Go through



沖縄の海と首里城のデジタル壁画。沖縄戦の経過を発表したクラスもある



実物の海も  
きれい!!



演劇部の練習風景を再現したら……基本はやはり発声練習から。男子部員は今や貴重な存在。東部高校だけだったとか…?



### 七年ぶりに東信演劇祭に参加 演劇部の熱演が光る

部員六人という小規模の演劇部の作品が校内外で大きな反響を呼んだ。学校を舞台にした人間関係をミュージカル風に描いた「早春賦」である。

自分たちと等身大の高校生の心理を表現したこの作品は、マンガの原作を基に部員が脚色・作詩し、音楽の先生に曲を付けてもらったもの。九月上演を日ざし、五月から練習を開始。部員が少ないため一人二役、男子が女装するなど工夫し、照明、音響は友人たちがサポートしてくれた。

苦肉の女装が大いに受けたことで手ごたえを感じ、友人の協力も心強い支えとなり、七年ぶりに東信演劇祭の舞台に立った。

個性を出しにくい時代に、「本当の自分を大切にしよう」というテーマが、舞台と客席に共感と感動を与え、久しぶりにもかかわらず県大会へあと一歩という成績を収め、来年への足がかりを残した。

部員の五人が三年生。これが高校最後の舞台になった。部長の関美智子さんは「演劇で高校生活が充実した。演劇は自分以外の人間を演じられることが魅力。一番の思い出になった。」

竹内哲平君は「これからも演劇を目指したい。」とそれぞれの思いを語ってくれた。

悩みは部員不足で、来春の課題は五人以上を確保することだという。

# グループ訪問

## 英会話

### ウォルナット

オリンピックや国際化に向けて、英会話を学ぼうと、五年前発足した。毎週火曜日の午後、中央公民館の一室には、オーストラリア出身のベリンダさんの明るい声とメンバーの笑顔が広がる。「皆さんとても上手で、やる気があるので楽しい」とベリンダさん。メンバーは代表の新田敬子さんから六人。  
三年前から参加した青木房雄さんの日記は



英語で綴られている。田畑義夫さんの趣味は、夫婦で楽しむ海外旅行。また、中沢節子さんは「英語を通して違った文化を理解できるのがうれしい」。小林富子さんも「言葉がわずかに通じるだけでも世界が広がる。外国旅行も楽しみたい」とそれぞれの夢を膨らませている。

# グループ紹介

## 菊花部会



東部町新庁舎ロビーを菊の花で飾ろうと十五人で始めて今年で二十七回を迎え、会員三十三名。か月の花の寿命に十一月

の家族以上の愛情を込めて一葉の傷にも気を配る心意気に老いの神も後ずさり。大人の作品に負けじと咲き誇る小学生の菊花を含めての鉢三百点、育ての親の心を知ってか美しく輝いております。

## 琴の仲間

邦楽 こま草会

大正琴の大好きな仲間です。毎月二回先生の熱心な指導のもとで心を一つにして練習を重ね部会の発表会と春に行なわれる教室発表会に向けて活動しています。練習後お茶の輪も持ち楽しいひとときを過しています。今年はまだマレットゴルフもやるようになりました。会員の和を大切に琴にマレットゴルフに温泉にとはりきって遊ぶ仲間です。



## フラワーアレンジメント ル・レーヴ

私達フラワーアレンジメント教室は、斉藤山玉先生のもと総勢27人のグループです。出発は、町のいきいき生涯学習塾です。

4年前に初めて講座ができ、毎年そこで学んだ方々がアレンジの魅力と美しさにとりことなり、4年目のクラスが「ル・レーヴ」、3年目が「ジュリア」、2年目が「ミモザ」という教室に輪が広がってきました。



文化協会の中では、まだ歴史の浅いグループです。けれども町の文化フェスティバルでは年々そのセンスに磨きをかけてきています。今年には「ブライダル」をテーマに白い花を基調としたアレンジにしてみました。

## 世界の踊りを楽しむ

乙女フオーダンス愛好会

九年前より毎年区内に「お誘い文」を回覧、初心者も募って週一回、休夜別に都合の良い時に集る。健康的で簡単なものが多く、レパートリーは80曲以上。

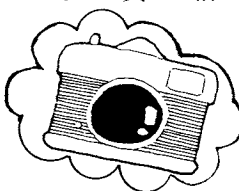


世界各地の特色ある踊りは、きれいに踊る必要はなく、カップルだけでなく、一人から四人、八人と皆で踊るものも多いため、主婦に好まれる。生涯スポーツとして町中に踊りの輪を広げたい。

## 本海野写真クラブ

本海野写真クラブは、会員十六名で、活動は、年二回の撮影会と年六回の例会を行っています。

今年の撮影会は、飯田市「時又のはだか祭り」を撮って来ました。例会は、二ヶ月に一度で、各自の作品を展示し、会員の投票により点数を付け、年末に集計して、賞品を出しています。



本年は、海野宿内の空いているお宅を借りて、会員の作品を展示し、観光客に楽しんでもらいました。

## 大ホールに魅せられて

民謡 麦の会

サンテラスホールが出来まして色々のイベント・ショーをみせて頂き、素晴らしい音響と照明にびっくりいたしました。いつか大ホールで唄って見たいと思っていたところ、民謡の発表会を大ホールでと、そのチャンスが廻って来ました。いざ大ホールのステージに立つと、緊張の余り足がふるえましたが、まるでスターになったような気分も味わえました。



# 第14回 文化フェスティバル風景

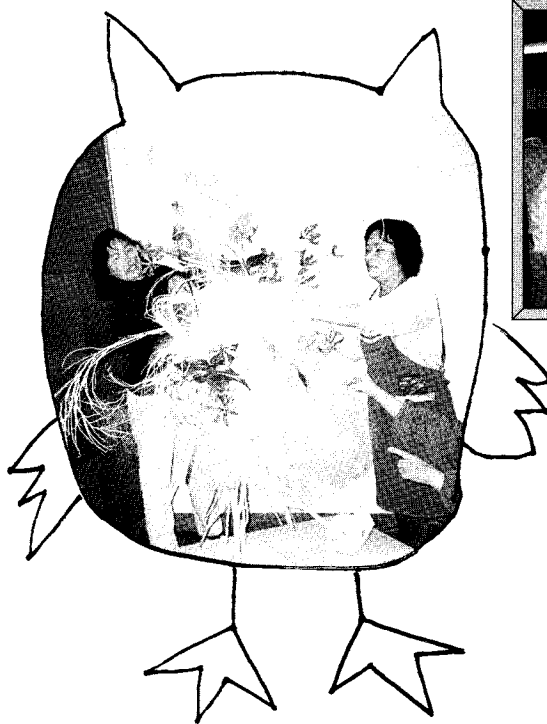
11月1日～3日 中央公民館に於いて



高さを合わせて、「ねえ、これでどう?」。この文化展が何よりの励み。また次の作品への意欲が沸いてきます



優雅な生け花も、まずは体力



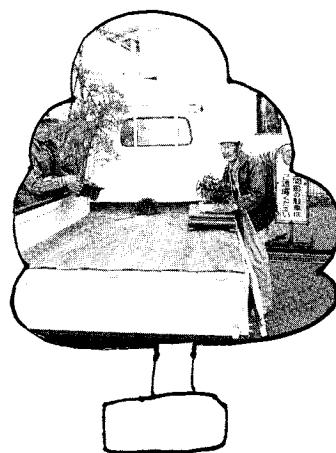
この笑顔がすばらしい名画を生む

古流松藤会のメンバーが取り組むのは、長野五輪のフィギアスケートをイメージした「銀盤に舞う」。エンゼルフェアで華麗なコスチュームを軽やかに表現した



お茶のおかわりを推められた男性や子供たちがよろこんで味わっていた

作品数が多くなり、うれしい悲鳴。でも知恵を出し合って、今年から三回に分けての搬入。準備もバッチリです



## ひだまりコーナー

フレッシュマンダンスに挑戦

小林 実さん



軽やかにルンバのステップを踏むのは、祇津の小林実さん(92)。今年の春、島倉千代子の「人生いろいろ」に合わせ初舞台。

中村通明さんの指導の下、東寿会の面々30名とごやかに踊った。「初めは恥しかったけれど、やってみたらとてもおもしろかった。音楽に合わせてと心身ともに若がり、気持ちたちが朗らかなる」と楽しそうに話してくれた。

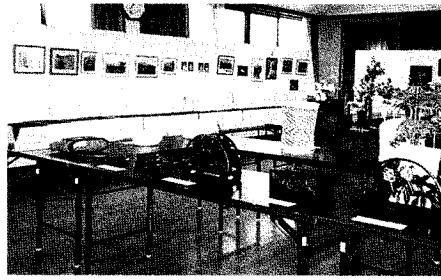
「地区にもグループができればいいなあ」と夢を語る。その意欲的な姿に脱帽。

# 三二文化展

## 「ピック」

### 曾根ふれあい祭り

十一月十六日(日)曾根公民館に於いて開催されました。屋内には、心が込められた作品の数々が展示され、屋外では、赤飯、豚汁がふるまわれまし



たりんごの品評会、ジャソボカボ、ちゃコンクール等盛り沢山の企画で、楽しいお祭りに、なりました。

### 日向が丘秋まつり

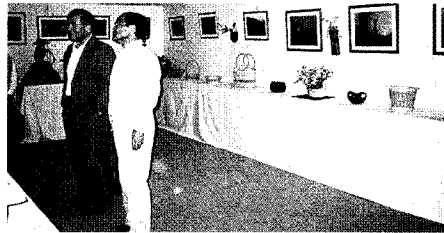
十一月九日、秋祭りの作品展、芸能発表、カラオケ大会が区公民館でにぎやかに行われました。



本格的な書や絵画、子供達の絵、写真、盆栽、生け花、手芸、和服の着付けなど、見事な作品が飾られ、文化の香の中で年配者を招いて昼食会もあり、会場の雰囲気から役員さんの暖かい配慮が感じられました。

## 白鳥台文化展

十月二十五日～二十六日に行われた文化展は、今年二十四回目と長い歴史を持つ。藤手芸や盆栽、書道など百点余りを展示。



楽しみでやっている常連を中心、に若い人の作品もあり、年々内容が充実してきていることでした。

## 出場作品展と敬老会

十一月二日(日)、出場公民館には書道やちぎり絵、リースなどが会場いっぱい展示され、その中で敬老会が行われました。



マジックや民踊などの余興も飛び出し、秋の一日、公民館には笑顔の花が咲いていました。

## 片羽区民文化祭

十月十九日数年振りの区民文化祭が開催されました。



家宝?も含めての数々の傑作展示品、コミカルなミニ歌劇、草笛、思い出の歌の合唱等、お酒も出てのお楽しみ会。立ち見席不要が残念でした。

## カラオケ部会発表会

第二回発表会が八月三十一日中央公民館で今年も盛大に行われました。お得意の歌が五十曲程披露されました。デュエット、飛び入りもあり、普段着、晴れ着の人も皆さんマイク握る姿が堂に入って素敵でした。各教室の先生が特別出演で化をそえました。



東部町カラオケ部会発表会

## 菊作りに功労賞の大輪

九月十九日開催の町政四十一周年記念式典において、菊花部会長の松沢房視さんが、菊作り三十年のキャリアと、津津小学校菊作り指導の功により、町から「社会教育功労賞」が贈られました。



## 書道部会研修の旅

恒例となった書道部会の研修旅行は七月三日、四十五名が参加し木島平内山和紙の体験と小布施方面の散策を行いました。

好天に恵まれ湯の丸インターを出発、北野美術館や小布施を散策した後、この日のメインである内山和紙体験の家へ向かう。紙とは切っても切れない関係にある面々、初体験となる「はがき」の紙すきに挑戦し、図柄を入れる工程に苦心しながらも和気あいあいと会員同士の親睦を図っていました。



## 文化協会役員研修会

九月二十五日、群馬県前橋、伊香保榛名方面へ研修に行きました。県立フラーパーク、竹久夢二記念館、みなすてきで一日が短かく感じました。



## 表紙の言葉



「私の生命の流れの中で展開する表現は自由であり喜びです」  
— 荒井茂雄 —

東部町田中出身横浜市在住  
新制作協会会員  
丸亀市猪熊弦一郎  
現代美術館相談役

## 編集後記

文化協会も二十五才の花盛り、編集室も、原稿の便りを持つ白山吹に似た四ツの気高き白い花びらとチツチャな雄しべ。

見る人の心にのこる二十五周年特集号を、と総身の知恵を出し合っの「せせらぎ十六号」首尾の良し悪しはともかく、その努力を買って戴ければ、ここに幸あります。  
(編集室 中村・新田・小松・小林・丸山)